

行政調査報告書「市民文教常任委員会」

平成 24 年 7 月 11 日（水）～13 日（金）

■福島県郡山市「ふれあい科学館について」

この施設は、宇宙を中心とした科学館であり、駅前再開発複合ビルの 20～24 階に設置されている。安城市では、プラネタリウムが設置後 30 年を経過しており、老朽化による不具合が発生している状況であるため、この科学館の最新式プラネタリウムを中心に調査を行った。プラネタリウムの担当者からの説明及び質疑、また実際に最新式のプラネタリウムを観覧し詳細に調査することができた。プラネタリウムの初期費用は 6 億円で維持管理費も多額である。単純に来館者数だけで費用対効果を図ることは難しいが、子どもたちの夢と教育の面からも科学に触れられるような施設は必要であると考えます。



■千葉県印西市「防災教育について」



平成 22 年度の千葉県教育委員会研究指定校「地域との連携を深める防災教育推進事業」、平成 24 年度の文部科学省「実践的防災教育総合計画」の実施中学校を調査した。実際に東日本大震災で被災し、避難経路・避難所・保護者連絡など、物理的にも従来の訓練どおりに行動できず、今までの防災教育に不足している部分が明確になったとのことである。この学校では、中学生は避難者ではなく地域の防災のリーダー・担い手と位置づけ、地域住民との防災訓練、高齢者宅訪問活動、古紙回収活動などを通じて地域の一員としての活動に取り組んでいる。本市においても、一部で中学生防災隊が発足しているため、今後更に調査研究を進め、東海・東南海地震に備えるべきである。

■長野県塩尻市「市立図書館（市民交流センター）について」

本市の更生病院跡地の中心市街地拠点施設で計画されている新図書館の参考にするため、平成 22 年に竣工した先進的な市民交流センターの調査を行った。この施設は図書館を中心に、子育て・シニア活動支援、ビジネス支援、青少年交流などの機能を有機的に連携させ、相乗効果を生み出している。建物全体及び内部の会議室等もガラス張りで、既存の図書館のイメージとはかけ離れた斬新なコンセプト・建築物であり、誰もが気軽に立ち寄れるよう開放的な施設となっている。また、各セクションの事務スペースが共同利用で縦割り行政を排除した組織体制としているのも特記すべき点である。

